

令和7年度 北秋田市総合戦略検証会議 検証会議委員による意見・提言集

参考資料

- ・第2次北秋田市総合計画・北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略・目標値達成状況確認シート（令和6年度分）
- ・第2次北秋田市総合計画・北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略・目標値達成状況確認シート（4力年総括版）
- ・北秋田市総合戦略検証会議検証シート・地方創生関係交付金事業（令和6年度分）

令和 7 年度 北秋田市総合戦略検証会議による意見・提言

<北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略>

戦略 1 産業振興による仕事づくり・稼ぐ地域づくり

・No. 13「アンテナショップの取扱い商品数」に関連した質問。アンテナショップとは少し趣旨が異なるが、イベント等へ出展する際に、市として補助を行っているか。また、市単独、あるいは他自治体と共同で、首都圏での物産展へ出展している実績はあるか。

また、青山ファーマーズマーケットは、首都圏でも浸透しているイベントであり、大山商店街のアンテナショップと比較しても、短期的な知名度向上の面では効果的だと考えている。こうしたイベントへのスポット参加の中で、市全体のPRを行う予定はしているか。

・No. 15「歴史文化施設・祭り入込数（延べ人数）」に関連した質問。御朱印巡りを目的とした観光導線の創出について。神社巡りを趣味とする層にとっては、来訪の動機づけとなる。また季節限定の御朱印などは、再訪のきっかけにもなり、お土産購入や経済的な波及効果も期待出来ると考えます。こうした観点から、市として積極的な働きかけが必要ではないか。

また、「ぶなホテル」の今後の展望について、現時点での状況を教えていただきたい。また、数年前から訪日外国人、特に台湾からの観光客が冬季期間、阿仁スキー場を多く訪れており、施設内のレストランが混雑している。団体客と一般客が集中する冬季期間は、いわゆるオーバーツーリズムと認識している。混雑緩和のため、週末に数台のキッチンカーを依頼しているものの、対応が追いついていないのが現状である。

戦略 2 新たな人の流れをつくる移住・定住の促進

特段なし

戦略 3 結婚・出産・子育てをかなえる切れ目のない支援の推進

・No. 36「市役所における男性職員の育児等に伴う休暇の取得割合（取得職員/対象職員）」、No. 37「市役所における男性職員の育児休業の取得割合（取得職員/対象職員）」の市役所における男性職員の育児休暇に係る施策について。ハローワークの事例を参考として紹介したい。ハローワークでは男性職員の育児休暇取得率が約 92%となっており、メールマガジン等で好事例も紹介している。職場での取得意識の改革や環境づくりが重要であると考えます。

戦略 4 住み続けたい、安心を築く地域社会の形成

・No. 39「活発に活動が行われている自治会（町内会）の割合」について。自治会内での連絡手段について、最近、世代によってなじみのある連絡手段が異なることを実感している。例えば、子ども会ではLINEグループでやりとりする一方、自治会では従来どおり回覧板が主流となっており、家族間でも連絡事項が共有されず、情報が流れてしまっている状況が深刻だと感じる。こうした連絡手段の格差について、市として対策を講じていることはあるか。

また、回覧板だけでは家庭内でも情報の共有に隔りが出てしまい、自分の地区で何が行われているのかわからないという声もある。連絡手段の多様化という観点から、SNSの活用や市公式LINEなど

のツールも、もっと活用できるのではないか。

- ・No. 40「地域活動に何か参加している市民の割合」について。地域活動の周知について、現在は地域の方々に限定して行っているか。近年のケアマネジメントの考え方では、介護保険サービスだけで高齢者の生活全般を成り立たせるのは困難であり、地域での支え合いが重要であり、自治会などの組織的な活動を通じて生活を支えるという視点が求められている。地域でどのような活動が行われているかという情報が共有されれば、我々ケアマネージャー側でも高齢者への働きかけがしやすくなると考えている。
- ・No. 61「路線バス・デマンド型乗合タクシーの輸送人員数」について。一部の路線バスや乗合タクシーでは、利用者が限られており運行経費に対する費用対効果が課題となっている。一方で既存のスクールバスは一定のダイヤとルートで運行されており、地域によっては住民の移動ニーズと重なる部分もあると考える。このような実情を踏まえ、地域交通の維持と経費負担の軽減の両立を図る手段として、スクールバスの地域共用・利活用の可能性についてはいかがか。

＜北秋田市総合計画＞

基本理念1 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり

- ・No. 74「がん検診受診率（5 大がん検診受診率の平均、全対象に対する率）」について。がん検診の受診率について、数値が非常に低く感じるが、本当にこれほど低いのか。

基本理念2 お互いが尊敬し支えあう明るいまちづくり

特段なし

基本理念3 命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり

- ・No. 94「芸術や文化等のグループ活動に参加したことがある市民の割合」に関連して、イベントの運営について、実行委員会形式での開催を検討してみてはいかがか。住民参加による運営とすることで、地域の関心や主体性を高め、関連施策への波及効果も期待できるのではないか。

基本理念4 自然を愛し環境をととのえる美しいまちづくり

特段なし

基本理念5 みんなで力をあわせる住みよいまちづくり

特段なし

＜その他＞

- ・積水ハウスで、道の駅内の敷地で宿泊施設の開発を行うプロジェクトを進めており、現在までに8道県で開業または開業予定となっている。こうした取り組みは、当市の宿泊施設に関する課題解決にもつながる可能性があると考えているが、見解をお聞きしたい。
- ・北秋田市には多くの観光資源等があるにもかかわらず、「宿がない」といった声を多く耳にする。現

在、宿泊施設の誘致について、どのような取り組みや進捗状況があるかお聞きしたい。

- ・近年、地域運営組織（RMO）が注目されているが、自治会の高齢化により運営の負担が大きくなっているほか、地域防災の観点からも将来的に不安があると感じている。全国的にも、また県内でも地域運営組織の事例があるが、北秋田市ではどの程度こうした組織があるのかお聞きしたい。
- ・要望となるが、国道 105 号で阿仁スキー場へ曲がる付近にある補助信号が、木の枝により見えづらくなっていた。このような場合、どこに問い合わせをすればよいか。
- ・以前から意見を述べてきたが、熊対策として専門人材を公務員として配置し、ハンターを雇用するなど、緊急時に対応できる職員の仕組みが必要な時期に来ているのではないかと考えている。中長期的に検討していただきたい。

< 4 力年での総括について >

- ・基本理念 3「命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり」については、これまでの 4 力年を踏まえると、関連指標が毎年低い数字で推移していたと考える。特に No. 92「伊勢堂岱遺跡に関するイベントに参加したことのある市民の割合」については、伊勢堂岱遺跡に関する取り組みや成果はメディア等を通じて市民にも伝わっていると思われるが、次期計画においては、この KPI の設定に十分留意し、取り組みを進めていただきたい。
- ・No. 70「市内の医療体制について整っており満足している市民の割合」について、評価は A となっているが、訪問看護の受け入れが厳しい状況がある。9 月から事業を縮小する事業所もあり、大館市の事業者が北秋田市で稼働するという事案もある。市内の訪問看護シェアが増えても、市内事業者のシェアが減り、結果として市全体の訪問看護体制に悪影響を及ぼすのではないかと懸念している。
- ・No. 89「就労移行支援事業の利用者数【累計】」については、D 評価となっている。市内に就労移行支援事業所が少ない状況にあり、関係機関との連携強化を取組内容に掲げているが、障がいのある方や車いす利用者にとっては移動が大きな課題となっている。したがって、車いす対応の送迎車やタクシーなど、移動面の整備が必要ではないかと考える。
- ・戦略 4「住み続けたい、安心を築く地域社会の形成」の 4 力年総括での実績値について、全体の項目が A 評価である。総合戦略の合計値として 69 項目のうち 45 項目が A となっており、取り組みが十分なのかという客観的な感想を持った。D 評価の施策についても 庁内外でも着目することが重要と考える。また、項目の周知・認識にあたって、市民に認識する機会を増やすなど、周知にもさらに取り組んでほしい。
- ・北秋田市の就労者数の中でマタギの人数も把握できるようにしてほしい。次に基本理念 3「命のたいせつさを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり」の達成率が 50%と低い点を踏まえ、R8 の目標設定にも考慮してほしい。具体的には、芸術・スポーツ面での充実や投資も進めてほしい。また、空き家と宿泊施設対策について、阿仁への移住希望者もいるが、水回りのメンテナンス等で出ていく人もある。活用可能な空き家が不足している。研究者の 1 か月住み込みの事例もあるため、空き家のマンスリー利用等も検討してほしい。最後に、エリア別の目標設定も総合計画に必要ではないか。エリアに着目した目標設定の検討をしてほしい。
- ・全体的に高い評価項目が多いと感じる。達成度合に限らず、KPI の設定に留意しつつ取り組みを進めるべきである。
- ・目標設定については、市民がイメージしやすいよう、KPI の具体化が重要であると考えている。
- ・次期計画の第 3 次総合計画への提言として、評価の仕方は KPI 設定で柔軟に行えるが、課題設定も同様に重要である。商業面の例として、戦略 1「産業振興のよる仕事づくり・稼ぐ地域づくり」の No. 10

「起業・創業者数【累計】」や No. 20「増設事業所数【平成 28 年度以降の累計】」など新規に着目した設定もあるが、衰退防止の観点から、廃業防止や後継者不足への対応など、課題に基づく指標も盛り込むべきであるとする。

＜地方創生関係交付金事業について＞

◇「奥秋田サステイナブルツーリズムプロジェクト」

- ・近隣自治体と連携して進めている事業ではあるが、自治体ごとに活動内容に個性が出ており、ばらつきがあるのではないかと感じる。例えば大館市では滞在型のモニターツアーを実施しているが、自治体間での連携は必ずしも多くないと思う。飲食業を含む事業者とも連携を強化することで、受け入れ体制が地域に根付いていくのではないかと考える。
- ・インバウンド対応として、多言語パンフレット等の準備も重要であるが、サービス提供側のインバウンド対応も踏まえた準備や整備が必要ではないか。市として関連する支援はあるのか伺いたい。また、道の駅あには現金決済のみである。将来的にはキャッシュレス化も検討する必要があるが、その方向性についても伺いたい。
- ・教育市場の実績値が前年より大きく上昇しているが、その要因は何と考えられるか。

以上